

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 9 月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171200385		
法人名	株式会社グランフェリスナー		
事業所名	グループホームひだまりの丘		
	美濃加茂市西町7丁目101番地の2 (電話) 0574-28-5588		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年8月28日	評価確定日	平成20年10月14日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの前は通学道路に面しており、朝夕元気な子供達の姿を見る事が出来る。経験豊かな看護師でもある管理者の下、地域密着という理念に真剣に取り組み、職員は、利用者がアクリル毛糸で編んだ「たわし」を持って近隣の一軒一軒を訪問し、「認知症になったらどこで暮らしたいか」等のアンケートを依頼し、説明したり、話し合ったりしていく中で、地域住民と共に生きるということへの理解を深めることに成功した。利用者は音楽という共通の趣味でつながり、音楽療法士でもある管理者は、その人の心に残っているメロディーを見つけ、利用者の暮らしを豊かにしており、表情も明るく、活気のあるグループホームである。

【情報提供票より】 (平成 20 年 7 月 30 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 23 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 7 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 14.7 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	15,000~ 円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 実費
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 7 月 30 日 現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.7 歳	最低 73 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西田医院、ワカムラ歯科
---------	-------------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の課題であった介護計画の様式については、ケア会議で検討し、職員の意見を反映したものに变更されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	前回外部評価の改善課題について、職員全員で話し合い、取り組んできたサービスを振り返り、今回の自己評価に臨んだ。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4.5.6.) 中断していた運営推進会議が再開し、現在は市職員、家族代表等の出席も得られ協力の下、歯科医による「口腔ケアについて」、市職員による「介護保険の説明」等も取り上げ、2ヶ月に1度行われている。ホームに於ける認知症ケアの対応について、家族に理解してもらたために、会議で認知症についての学習もしていく意向がある。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	過去に苦情箱への投稿は無く、面会時や家族会の折に家族の意見・要望を聞き取ることを大切に、ホームの運営や介護計画に反映している。金銭出納簿、事故報告等は確実に実行されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との連携を深めるために、職員の発案で、地域住民の協力を得ながらアンケートを実施し、統計を取り、その結果からわかった地域のニーズに対してホームとしての協力方法を検討している。自治会への加入も職員への負担等を考慮しながら考えているところである。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の人々と触れ合い、生き甲斐を見つける」と理念の中に明文化し、運営方針の中にも「地域との交流」が含まれ、地域密着型サービスを意識した理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビング、事務所の目に付く所や業務予定表等に理念を明記し、職員は「地域の人々との触れ合い」の実現に向け真剣に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域にアンケートを行い、その結果を統計し、課題への取り組みを検討している。アンケートの依頼のため、職員が近隣の家を訪問し、お互いの理解が深まり、以前よりも親しく挨拶を交わし、夏祭りへの参加者も増えた。自治会への加入は現在検討中である。	○	将棋の好きな利用者の対戦相手が居ないことから、ボランティアや小学生等に呼びかけ、交流の糸口としていくことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々のサービスを振り返り、見直し、サービスの質を向上していく上で外部評価をを活かしている。運営推進会議の再開、地域との付き合い等、昨年の改善課題は改善された。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	中断していた運営推進会議が再開し、歯科医による口腔ケア、市職員による介護保険の説明等の学習が取り入れられている。夏祭りには民生委員の協力もあり、前年度よりも多くの近隣者の参加があった。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は包括支援センターが連携の中心となっており、必要時には積極的に出向き、情報やアドバイスを得ている。市「ケアネット」のメンバーとして、ケア会議やケアマネジャー会議にも参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	報告書等は基本的に面会時に直接手渡している。家賃は家族がホームに来て直接支払うのが原則であるが、遠方の人や都合の悪い場合は電話連絡の後、振り込む形をとっている。	○	事故等の経過は家族に報告し、共有と確認への取り組みが期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱が設置してあるが投稿は無く、面会時の聞き取りや家族会の意見等を大切に、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、常勤職員の交代は無いが、パート職員の定着率は良くないため、利用者への影響も少なからず起きている。	○	パート職員の定着率向上のための改善課題をみつけ、利用者へのダメージを防いでいく取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に基づき、職員は交代で研修に参加し、その内容をケア会議やミーティング時に報告し共有している。資料は常に目に付く場所に置き、各自、働きながら自己研鑽に励んでいる。	○	全職員が利用者一人ひとりの課題を分析し、介護計画に反映させることが出来る力量を育てる取り組みを検討しており、その成果に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のケアネット会議等に参加し、事業所との交流の中で情報交換がなされ、参加した管理者からその内容は職員に報告され、共有されている。	○	近隣の同業者との相互訪問など、職員も広く情報交換をしていくことが期待される。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、見学してもらい、夏祭り等ホームの行事に招待し、職員や利用者、雰囲気等に馴染んでもらい、納得してから利用してもらうよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者は、職員と利用者との相性を理解し、一人ひとりの職員がもっているものを出し合いながら、職員が利用者に寄り添い、若くて輝いていた頃、戦争体験等を傾聴し、喜怒哀楽を共感し、支えあいながら生活していく、関係づくりに努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	人の心を和ませ、癒し、何かを見つけ、何かを取り戻す「歌」を大切にし、利用者個々の心に残っているメロディーを見つけることで一人ひとりの思いや意向を把握しその人らしい生活が出来るよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員はケア会議の中で、利用者等の課題や気づきを気軽に出し合い、面会時や家族会での家族の意見等も反映した介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の変化に合わせ、随時に見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的に利用者家族の送迎で通院しているが、家族の都合が悪い場合は看護師である管理者が受診に同行している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を大切にし、家族による受診を継続しているが、協力医による定期の往診もあり、緊急時の医療機関との協力関係ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	2名の看護師でもある管理者と職員を中心に、ホームでの介護が可能な限り支援し、協力医の判断で入院というホームの方針が家族、職員、かかりつけ医、協力医で確認、共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ある利用者の心に残っていたメロディーを話しの材料にし、一人ひとりの誇りを大切にされた言葉掛け、対応をしてきたところ、昔を思い出し活力が沸き元気になった事例がある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の心身の状態、気分、ペースに合わせて、一人ひとりの希望に添い、その方らしい生活が過ごせるような支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で栽培した野菜を食材に取り入れ、季節感を味わっている。職員には食事代の補助があり、利用者と共に準備、片付けをし、同じ物を食べながら、美味しさ、楽しさを共有している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日おきの入浴支援が行われ、拒否をする利用者へは、希望の時間やタイミング等に配慮して声をかけ、それでも入浴しない場合は清拭等で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌は人生そのものとして利用者一人ひとりの「思い出のメロディー」を見つけていく中で、その人の生活歴を探り、その人に合わせた楽しみ、気晴らしの支援が行われている。買い物や行楽に出掛けたり、ボランティアとの交流等も行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日は近くの神社への参拝を含めた散歩を行い、要望に応じて家族や職員と共に希望する場所への外出をしている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全のため、家族の同意を得て、玄関のみ施錠しているが、リビングから体操やゲームの出来る広々としたウッドデッキへ、さらには田畑や町並みの望める芝生の庭に下りられ、とても開放的である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難場所を決め、ホームでの自主的な避難訓練は実施しているが、地域の協力を得ていくのが今後の課題となっている。	○	運営推進会議を活用し、地区の役員と情報を交換し、地域の協力が得られるよう、働きかけていくことが望まれる。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの嚥下能力、食事摂取量、水分摂取量等を把握し、その人に合わせた支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはピアノを中心に、2つのユニットの利用者が共に和むのに十分な椅子やソファが設置されている。田畑や民家が一望出来、神社の森からは野鳥のさえずりが聞こえ、風通しが良く居心地の良い空間となっている。廊下が広く、トイレも介助が出来る十分な広さが確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て持ち込んだ使い慣れた椅子や小物、写真等もあり、利用者の好みに合った居室作りがなされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。